

## 美馬市における民俗芸能の伝承 －広棚の獅子舞－

小川一彦・川内由子

Tradition of the Folk Entertainment in Mima-shi:  
Shishimai in Hirodana

Kazuhiko OGAWA and Yuko KAWAUCHI

### はじめに

徳島県には、ハレの場で歌う祭り歌や祝い歌、仕事と共に歌う作業歌など生活に密着した民謡や、盆踊り、精霊踊りなど様々な民俗芸能が伝承されている。しかし、生活手段や生活様式の変化、社会構造の変動のために、これらの民俗芸能の中には内容が変更されたもの、後継者不足によって伝承が困難となっているもの、途絶えてしまったものも少なくはない。

うだつの町並みで知られる美馬市脇町は、「三味線もちつき」や「落久保の屋台」、「獅子舞」などの民俗芸能が伝承されている。これらの伝承は徳島県の民俗芸能の伝承という側面だけで無くアイデンティティーの継続といった側面からも重要であると考えられる。しかしながら特に獅子舞は消失の危機になることが指摘されており、楽譜化や映像化は保存方法のひとつとして有効であろう。本稿では、聞き取り調査をはじめとするフィールドワークに基づき獅子舞における鳴り物の採譜及び楽譜化を試みるとともに、美馬市脇町広棚地区の獅子舞についての考察を行った。

### Ⅰ．徳島県美馬市の概要

美馬市は、2005（平成17）年3月1日に旧美馬郡内の脇町、美馬町、穴吹町、木屋平村が合併してできた、豊かな自然と数多くの文化財が残る歴史情緒あふれるまちである。徳島県の西部（県都徳島市から約40km）に位置し、西側が三好市、美馬郡つるぎ町と、北側が阿讃山脈の山頂で香川県と、東側

が阿波市、吉野川市、名西郡神山町と、南側が那賀郡那賀町と接している。市のほぼ中央を東西に四国一の大河である吉野川が流れている。また剣山に源を発し山間を流れ、吉野川中流に合流する全長41キロメートルの一級河川、穴吹川は日本一の水質を誇る清流である。穴吹川をはじめとする幾多の川が吉野川に流れ込み、その沿岸の平野部が主な可住地となっている。

また、日本百名山のひとつに数えられ西日本第二位の高峰である剣山（標高1,955メートル）は、山岳信仰の拠点として栄えた霊峰である。北側の阿讃山脈、南側の剣山をはじめ、ほとんどが山地で、総面積の約8割が森林となっており、清らかな水と豊かな緑に囲まれた自然の美しい地域である。（図1）



図1

脇町は、美馬市の北部に位置し、北は讃岐山脈を境に香川県高松市、西は美馬町、東は阿波市に接し、北部の讃岐山脈には大滝山・妙体山・台ヶ丸山などがそびえたっている。

阿波九城の1つである脇城の城下町、うだつの街並として知られており、日本の道百選にも選定され

ている。(図2)



図2

## II. 美馬市の獅子舞について

獅子舞は日本全国に数多く伝承されており、神楽系の獅子神楽と風流系の獅子舞に分けられる。徳島県の獅子舞は神楽に分類され、大部分が二人立ちで、雌雄二頭で舞うものが多い。楽器は、太鼓、拍子木、鉦、チャッパ(手拍子)で構成され、三味線、鼓、笛が加わるところもある。

美馬市役所 美来創生局観光課 課長補佐 二宮正経氏に美馬市教育委員会に残る資料を基に、美馬市の獅子舞の歴史について聞き取り調査を実施した。

美馬市の獅子舞は、獅子頭につけた胴衣に大人2人が入って舞う。流儀や形式は異なるが、系統的には古楽や舞楽の流れをくむものである。しかし、連続的に継承されたものでなく、現在のものは讃岐から伝わった農耕儀礼に関係の深いものと考えられる。現在では悪霊払い、五穀の豊作、家内安全、子孫繁栄を鎮守の神へ祈る祭りの中の大事な行事である。伝来の時期は「木ノ内」は野村八幡神社の氏子等が伝承しているもので、200年余りの歴史があると言われているが、一時中断し1855(安政2)年に再興されたと伝えられている。曾江山地区では「清水」が120年前、「広棚」が80年前、「冬畑」が一番古く江戸時代から伝えられたとされ、郷土の歴史と共に生きてきたものである。「木ノ内」の獅子舞は、1968(昭和43)年9月、松江市で開かれた第10回中国四国地区民俗芸能大会に徳島県の代表として参加し、激しく勇壮な獅子舞として高く評価されている。毎年10月15日の野村八幡神社の秋祭りには神輿の供

として町内を舞っている。「夏子」では10月10日～20日まで春日神社など数社を回って奉納、「清水」では秋祭りに清水の琴平神社など3～4社に獅子舞を奉納、「広棚」では、10月27日、11月25日に地区の神社に、そして大滝山の祭にも奉納している。「広棚」の獅子舞は天狗の面をつけた者が獅子に戯れるのでおもしろい舞として伝えられている。10月25日の黒北八幡宮の秋祭りには曾江山地区の獅子が集まって競演している。<sup>1)</sup>

## III. 美馬市脇町広棚地区獅子舞の伝承

『徳島県の民俗芸能 徳島県民俗芸能緊急調査報告書』(平成10年3月 徳島県教育委員会)によると、旧美馬郡脇町には獅子舞として「冬畑の獅子舞」、「清水獅子連」、「夏子獅子舞」、「広棚獅子連」、「木ノ内の獅子舞」(平成8年度徳島県民俗芸能緊急調査悉皆調査一覧)が報告されているが、現在「冬畑の獅子舞」は活動を休止している。今回は特に「広棚獅子連」について調査を行った。

### 1. 広棚地区の獅子舞の概要

「広棚獅子連」三宅克彦氏に聞き取り調査を実施した。

広棚の獅子舞は明治時代から現在まで続いている。現在の「広棚獅子連」のメンバーは9名(40代から80代)で、獅子1頭(頭に1名、尻に1名)太鼓2名、鉦3名、天狗1名で構成されており、天狗と共に舞うことが特徴である。昔は演目を演じるおよそ1ヶ月前から、春日神社でならし練習を行っていたが、現在は前日だけの練習となっている。10月27日に八幡神社で行われる「秋祭り」をはじめ、祝賀行事やイベント等、活動を行っている。また、集落の子どもが少なくなったことで、1960(昭和35)年ごろに「曲打」がいなくなり、人手不足のときは他の集落からの応援を頼むこともある。<sup>2)</sup>

広棚の獅子舞は天狗と共に舞うこと、演目の前に口上書を読み上げることが特徴的である。その舞の

内容は、天狗は、山の神の化身とも言われ、赤ら顔で鼻の高いことを自慢とし、鼻の低い獅子を酒を飲みながらからかう。天狗は飛翔自在にふるまい、獅子にも酒を飲ませる。しかし、最後には天狗は獅子に飲みこまれてしまうというものである。高橋晋一は、徳島県西部の獅子舞について次のように述べている。

県西の獅子舞は、1頭立てが多い。獅子頭が「毛獅子」である、鳴り物に鉦が入る、華やかな獅子の油単など、讃岐系統の獅子舞の特徴をよく表している。演目に「猩々の舞」が入る（美馬市美馬町猿坂・弁財天社ほか）、「獅子の巻物」を読み上げる（三好市池田町馬路・境宮神社ほか）、太鼓打ちが頭に花笠をかぶる（三好市西祖谷山村重末・八幡神社ほか）などの事例も、讃岐の獅子舞の影響を受けたものである。<sup>31</sup>

広棚の獅子舞は、1頭立てであること、獅子頭が「毛獅子」であること、鳴り物に鉦が入ること、「猩々の舞」に似た舞いがあることなどから、香川県（讃岐）の影響を受けたものであると考えられる。

## 2. 伝承の状況

美馬市脇町広棚地区で開催された「芝桜祭り」（平成30年4月8日調査）の中で「広棚獅子舞」が披露された。この「芝桜祭り」は現在、約2万人が訪れる脇町の中では大きなイベントの一つになっており、地元の方々の絶え間ない努力とふるさとへの強い思いが感じられる行事である。

獅子舞は獅子1頭（頭に1人、尻に1人が入り計2名）、天狗1名、太鼓2名、鉦3名で構成される。太鼓は横並びに2つ並び2名で、鉦は木製の台に3台を吊るし3名が演奏する。獅子頭は毛獅子で、太鼓、鉦の演者は「春日神社」「広棚獅子」の文字の入った水色の着物を身に付けている。当日はおよそ8分30秒間、勇壮な舞いが披露された。

① 譜例1、冒頭の場面では鉦と太鼓の鳴り物とともに、黒い1頭立ての獅子が登場し舞う。譜例1のリズムが♩=125前後の速さで繰り返し演奏され、獅子が首を振っている時は、鉦のリズムが強拍で演

奏される。（譜例1）（写真1）



譜例1

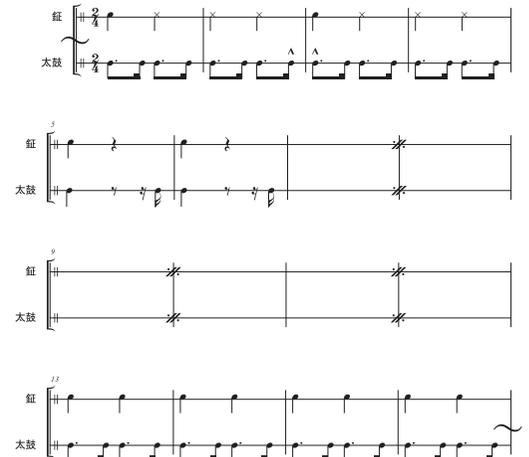
採譜：小川一彦



② 譜例2の場面では、獅子が地面に頭を伏せた状態から、首を振る際に鳴る鈴の音の後、2小節目から3小節目にかけて太鼓が叩く強いリズムを合図に動き出す。5小節目からはリズムパターンが変化し、獅子が高らかに頭を持ち上げながら立ち上がり、13小節目からは、獅子がその場から動き出す。獅子が頭を高く上げて力強く首を振りながら舞う場面では、鉦のリズムが強拍で演奏される。鳴り物の速さは♩=125前後である。（譜例2）

譜例2

採譜：小川一彦



③ 譜例3の場面では、獅子が背中を大きく立てて舞う。獅子が背中を立てるタイミングで譜例3の4小節目のように太鼓が強く叩いた後、リズムが変化する。5小節目から17小節目にかけて獅子は背中を上げたまま、頭を地面の近くで振っている。その

後、獅子が勢いよく頭を振り上げるタイミングで再び太鼓の音が大きくなり、リズムが変化する。18小節目から21小節目にかけて鉦の強拍のリズムに合わせて獅子は首を振っている。(譜例3)(写真2)



譜例3

採譜：小川一彦

Musical score for Example 3, featuring two staves: 鉦 (Bell) and 太鼓 (Drum). The score is in 2/4 time and consists of 21 measures. Measure numbers 3, 9, 15, and 21 are indicated at the start of their respective lines. The notation includes various rhythmic values and accents.

④ 譜例4の場面では、天狗が登場する。4小節目から5小節目にかけて太鼓が叩く強いリズムを合図に6小節目に天狗が現れる。天狗は赤い着物を着て、黄色と水色が鮮やかな襷掛けをし、手に扇子を持ち、瓢箪に入った酒を腰にぶら下げている。この場面では、6小節目から25小節目までの20小節間のリズムパターンが繰り返される中、天狗は立派な長い鼻を自慢し、両こぶしを高く上げるなど自らの力を誇

示するような振る舞いをする。その時の獅子は背中を上げ、頭を地面の近くに獅子の様子を伺っている。冒頭5小節目のつなぎの後、天狗が登場すると鳴り物の速さが♩=135前後に上がっている。(譜例4)(写真3)



譜例4

採譜：小川一彦

Musical score for Example 4, featuring two staves: 鉦 (Bell) and 太鼓 (Drum). The score is in 2/4 time and consists of 25 measures. Measure numbers 6, 10, 14, 18, and 22 are indicated at the start of their respective lines. The notation includes various rhythmic values and accents.

⑤ 譜例5の場面では、天狗が獅子をからかうような動作が見られる。獅子の顔を持ち、飛び跳ね、獅子の低い鼻をからかうように振る舞う。ここでも獅子が頭を高く上げ首を振るところで鉦のリズムが強拍で演奏されている。ここでは天狗、獅子共に自分の力を見せびらかすような動作が見られる。鳴り物の速さは♩=135前後である。(譜例5)(写真4)



譜例7 採譜：小川一彦

顔を抑えて無理やり酒を飲ませる。獅子に酒を飲ませ大人しくさせて、天狗は獅子の背中に腰を掛け、ここでも両こぶしを高く上げ、髭をなでるなど、自らの力を誇示するような振る舞いをする。鳴り物は譜例7のリズムパターンが繰り返されるが、この場面から鳴り物の速さが♩=145から♩=160前後までだんだんと速くなり、天狗、獅子ともに動きが激しくなっている。(譜例7) (写真6-1・6-2)

⑧ 譜例8の場面では、酒を飲まされ大人しくなっていた獅子が、再び力強さを取り戻したような舞が演じられる。天狗は先ほどと同じように獅子の顔を抑えようとするが、ついには獅子に飲みこまれる。この時、獅子舞の尻の演者が天狗の演者と入れ替わる。鳴り物は、冒頭5小節間のつなぎの後、速さが♩=155前後になる。その後、6小節目から13小節目までのリズムパターンが繰り返される。(譜例8) (写真7)



譜例8 採譜：小川一彦

獅子が天狗を飲み込んだ後、獅子は勝ち誇ったように頭を上下に力強く舞うが、譜例9の1小節目で鳴り物がトレモロで音を伸ばす間、獅子は地面に伏せており、首を振り、鈴を鳴らすとともに胴幕をなびかせながら立ち上がり舞が終わる。鳴り物は最後にふさわしく堂々とゆっくりとしたテンポで演奏される。(譜例9)

譜例9 採譜：小川一彦

このように、広棚の獅子舞では、場面の流れや獅子と天狗の表現に合わせて、鳴り物のリズムパターンや速度が変化していることがわかる。踊りと音楽が一体となり、「広棚獅子連」のカタチを創り上げている。

### おわりに

『徳島県の民俗芸能 徳島県民俗芸能緊急調査報告書』（平成10年3月 徳島県教育委員会）によると、今回取り上げた広棚地区が属する美馬市の民俗芸能は、獅子舞9件、採物踊3件、お練り11件、お的1件、たたら踏み1件（平成8年度徳島県民俗芸能緊急調査悉皆調査一覧）となっている。また、本調査報告書には中止されているものの記載もあり、現在はさらに休止・中止されているものも増えていると推察できる。民俗芸能は、基本的に口伝が継承方法となっている。伝承を困難にする大きな要因の一つが口伝であること、現在、伝承が困難かつ危惧的状况となっていることから、本研究で取り組

んだ楽譜化や映像化は急務であると考えられる。今回、調査を行った広棚の獅子舞も、高齢化と子どもの減少により、演目の内容の変更を余儀なくされているが、他の集落と合同で舞いを演じるなどの新たな取り組みも行っている。このように、民俗芸能の伝承においては、行事や祭りの内容を状況にあわせ許容し、新たなカタチを導入していくことも必要であると考えられる。

本研究をすすめるにあたり、ご協力いただきました「広棚獅子連」三宅克彦氏、美馬市役所 美来創生局観光課 課長補佐 二宮正経氏、四国大学学部運営支援課 SUBARU 事業推進本部副本部長・徳山直人氏に心より御礼申し上げます。

#### 〔図版出典〕

図1 美馬市ホームページより引用

図2 Google マップより引用

譜例1～9 執筆者採譜

写真1～7 徳山直人氏撮影 DVD より執筆者編集

#### 〔註〕

- 1) 2018年9月 美馬市役所にて取材
- 2) 2018年1月 三宅克彦氏自宅にて取材
- 3) 徳島県地域伝統文化総合活性化委員会『徳島県伝統文化総合活性化計画 - 「徳島県祭り・行事調査」に基づく計画 - 』徳島県教育委員会教育文化政策課、2014年、34頁

#### 〔参考文献〕

徳島県教育委員会『徳島県の民俗芸能 徳島県民俗芸能緊急調査報告書』徳島県教育委員会 1998  
徳島県地域伝統文化総合活性化委員会『徳島県伝統文化総合活性化計画 - 「徳島県祭り・行事調査」に基づく計画 - 』徳島県教育委員会教育文化政策課 2014  
檜瑛司著・皆川学編『徳島県民俗芸能誌』錦正社 2004